

1月から2月にかけて、市長は、市内小・中学校9校を回り、児童、生徒と給食を取りながら懇談を行いました。市長を身近に感じることで、自分が暮らすまちのことにも関心を持ってもらおうという狙いです。

児童、生徒とのやりとりの一部を紹介します。

質問 小学生の頃、好きな人はいましたか？（小学3年生）

市長 もちろん、いた。みんなにも、好きな人はいるかな？人を好きになると、人を思いやることができるようになる。ぜひ、人を好きになってほしい。

質問 一番、取組んでいることは何ですか？（小学5年生）

市長 長久手市には、今、58,000人くらいが、住んでいるけども、隣近所の人とあいさつをしない人が多いように感じます。私や教育長は、このオレンジのベストを着て、毎朝、市役所までテッテコ、テッテコ歩いて、すれ違う知らない人にもあいさつをしています。最初は、あいさつをしてくれなかった人でも、だんだんとあいさつを返してくれるようになってきました。



みんなにも、あいさつをしてほしい。お母さん、お父さんに「おはよう」というのはもちろん、近所の人にもあいさつをしてください。そうすれば、自分が困っているときに、きっと近所の人が「大丈夫だよ」と声を掛けてくれます。

質問 イオンは、どうして田んぼの中に作るのですか？（小学5年生）

市長 長久手は、地主さんと役所が相談して、もう少し住宅地を増やそうとなって、区画整理という方法で山を削って、田んぼを埋めて住宅地にしてきました。その土地を使って事業を行う人を募集したら、イオンさんが手を挙げてくれた。

ところで、君は、なんでこの質問をしようと思ったのかな？

（児童：「緑がもっと豊かだったのに、減ってきたから」と回答）

私は、まちの東側にある山を残したいと思っている。でも、その山も誰か個人の土地だから、その人がお金が必要になったら売ってしまうかもしれない。でも、どうしたら東側の山を残せるのか考えていきたいと思っている。

私が小学生の頃は、この学校の周りも緑でいっぱいだった。でも、今は、学校の周りの緑が減ってきたから、私は学校の中を緑でいっぱいになりたいと思っている。グラウンドの真ん中に木があったとしたら、サッカーのときにボールが木に当たって邪魔だと思うのではなく、木が 12 人目の選手だと考えてはどうか。

一緒に長久手を緑でいっぱいにする方法を考えてもらえないかな。

質問 陸上競技場を作って欲しい（中学 3 年生）

市長

これから日本の人口は減って、2060 年には 9,000 万人くらいになると言われている。人口が減るということは、経済が縮小するという事。

これから人口は、3,000 万人も減っていくけれど、人口が減るのは、日本の歴史上初めての事だから、今の人には、誰も想像できない社会になると思う。



陸上競技場を作って欲しいという要望だったけれど、新しい施設を作ると、施設が新しいときはいいけれど、古くなるとメンテナンスが必要になる。このきれいな校舎も建ててから 35 年もすると、いろいろな所が悪くなる。人口が減って、経済が縮小したときに、今のようにメンテナンスができるのか分からない。そうした理由で新しく陸上競技場を作るのは難しい。

だから、私は、今、市内にある大学や民間の施設を市民も使えるようにさせてもらえないかと考えている。今、役所でも、会議室が足りない困っているけれど、建物を増築するのではなく、例えば、市内にある空き部屋を借りて、そこで会議をしてもいいと思っています。

質問 市長は、長久手市をどんなまちにしたいと考えていますか？

(中学3年生)

市長 これまで、まちのいろいろなことは、市の職員と議員さんで決めてきました。これからは、君たち、市民のみなさんと一緒になって考えていきたい。でも、市民のみなさんに集まってもらうこと、集まって考えること、その考えをまとめていくことは、とても難しい。「みんなで決めて、みんなでやる」は、日本中で、どこもやったことがない。だから、なかなか上手くいかない。でも、その『みんなで決めて、みんなでやる』が面白いと言って、国の人々が、長久手市を見に来ている。

みんなで決めて、実行していく社会の主人公は、君たちが初めての世代になる。ぜひ、一緒にいいまちにしていこう。

勉強ができる、できないは、あまり問題じゃない。一番大事なのは、人の目を見て話ができるということ。

人を好きになって、その人にも自分を好きになってもらいたかったら、相手の目を見て、「うん、うん」とうなずく。目を見て話しを聞く。先生の話も、分からなくても、先生の目を見て「うん、うん」とうなずいて聞く。先生だって事前に準備をして授業をしている。みんなにそうやって聞いてもらえればうれしいんだ。

勉強が苦手だったとしても、将来、何かをしようとするときには、その分野が得意な人に頼めばいい。相手の目を見て話を聞くことができる人のことは、みんなが認めてくれて、「君の頼みなら仕方がない」と聞いてくれるようになる。

人の目を見て、話を聞くことが、これから生きていくうえで、一番大事なことだと思うよ。

東小学校では、3年生と給食を食べました。その中で、あいさつがよくできているクラスには、「あいさつマイスター」の称号が与えられるとの報告がありました。それを受けて、次のような話をしました。



市長 今日は、みなさんが一生懸命あいさつをしてきていることに感動しました。一番すごいと思ったのは「あいさつマイスター」のことです。私や教育長は、毎日このオレンジのベストを着て、まちを歩いています。すれ違う人には必ずあいさ

つをしています。

東小のみんなは、積極的にあいさつをしてくれているけれど、みんなのお母さんやお父さんはどうですか？ 大人は恥ずかしくてあいさつができない人が多いです。昔は、10,000人くらいだった長久手も、今はいろいろな人が引っ越してきてくれて50,000人を超えるまちになりました。でも、引っ越してきて、知らない人同士だから、お互いにあいさつができない。

おじいさん、おばあさんになった時に、おうちで一人で死んでしまったり、ちょっと散歩に出ただけで家がわからなくなったりすることがあるけれど、みんながお互いにあいさつをしたり、声をかけてくれるとそういう寂しい思いや家に帰れなくて困った思いをする人を減らすことができます。

長久手市は残念なことに泥棒が多いけれど、みんながあいさつをすると、泥棒は顔を見られたと思って逃げていく。

これからも、あいさつをしてください。

みんなが大きくなって、長久手の以外の場所に住むことになっても、いずれはまた長久手に戻ってきたいと思えるまちになるように、緑を残していきたい。そんなまちにしていきたいと思っている。

南中学校でも、あいさつのことについて話をしました。

市長 私は、毎朝、このオレンジのベストを着て、市役所まで歩いて出勤していて、すれ違う人とあいさつをしています。

この学校がある南小学校区は、一昨年は、愛知県でトップレベルの犯罪が多い地域でした。警察からは、「あいさつをする地域は、犯罪が少ない」と聞き、先生やこの地域の人たちに「ぜひ、このオレンジのベストを着てあいさつをしてほしい」とお願いをしたところ、多くの人が賛同してくれて、昨年は一昨年と比べて30%ほど減らすことができました。

みんなも犯罪の被害には遭いたくないと思います。ぜひ、近所の人たちともあいさつをしてほしい。一緒に良いまちにしていきたい。